

G7 EDUCATION MINISTERS' MEETING IN TOYAMA AND KANAZAWA

0

はじめに



G7富山・金沢教育大臣会合
石川県推進協議会会長

石川県知事 馳 浩

令和5年5月、富山県富山市及び石川県金沢市を会場に、石川県では初めての政府主催の国際会議である「G7富山・金沢教育大臣会合」が開催され、関係の皆様のご協力のもと、成功裏に終了しました。

我が国で、教育大臣会合が開催されたのは、私が文部科学大臣として議長を務めた倉敷会合以来7年ぶりであります。会合の成果として採択された「富山・金沢宣言」では、子どもたちのウェルビーイングの向上、魅力ある優れた教師の確保や資質能力の向上、インクルーシブ教育環境の整備など、今後のG7各国の取り組みの方向性が示されたところでありますが、これまで石川県が取り組んできた「いしかわ師範塾」による教員養成や、特別支援学校の教育環境の向上などと軌を一にするものであり、富山及び石川の地での議論を経て採択されたことを、大変意義深く感じております。

石川県では、会合の開催にあたり、県内各界の代表者から成る「G7富山・金沢教育大臣会合石川県推進協議会」を立ち上げ、会合に向けた様々な準備を進めるとともに、富山大学及び金沢美術工芸大学の学生の皆さんに両県共通のロゴマークを使ったポスターを作成していただくなど、共同開催地である富山県と一体感を持って機運醸成に努めました。

また、「富山・金沢子どもサミット」では、富山・金沢両市の中学生の皆さんが意見を交わしながら、より良い未来のために自分たちができることについての宣言書を採択し、会合当日には、中学生の皆さんと各国大臣等との間で活発な意見交換が行われました。加えて、県内高校生の皆さんによるコーラスやお点前、箏曲演奏によるおもてなしなどを通じて、石川県の次代を担う生徒の皆さんの今後の成長や自信に繋がる、大変有意義な機会となったものと確信しております。

さらに、石川ならではの特別なおもてなしとして、加賀百万石・前田家の居城があった金沢城公園内で歓迎夕食会を開催し、G7代表団の皆様にも、県産食材を活かした料理や地酒、金沢素囃子をはじめとする伝統芸能をお楽しみいただきました。また、金沢21世紀美術館、国立工芸館、金沢大学を訪れたエクスカーションでは、石川の歴史や文化、高い教育レベルを体感いただきました。会合の1週間前に発生した「令和5年奥能登地震」の復旧・復興の最中ではありましたが、石川県の魅力を強く印象付けることができたものと考えております。

この会合を契機として、様々な場面で富山県との連携をより強固なものにするるとともに、「幸福度日本一の石川県」の実現に向け、「富山・金沢宣言」の趣旨を具現化させるべく、様々な取り組みを進めてまいります。

最後に、「G7富山・金沢教育大臣会合」の開催にあたり、運営や警備等にご尽力をいただきました文部科学省や県警察の関係者をはじめ、ご支援、ご協力をいただきました関係者及び県民の皆様にも、改めて御礼申し上げます。



G7富山・金沢教育大臣会合
石川県推進協議会副会長

金沢市長 村山 卓

令和5年5月、G7富山・金沢教育大臣会合が、国内では初めて複数の自治体による共同で開催されました。また当地、石川・金沢が政府主催の国際会議の会場となることも初めてのことであり、これを無事滞りなく終えることができました。会合の誘致をはじめ開催にご協力いただきました関係各位、並びに警備や交通規制等に格別のご理解とご協力を賜りました皆様方に心より感謝申し上げます。

当市には、14日から各国・関係機関の代表者にお越しいただき、「コロナ後の教育」を全体テーマとして会合が行われ、G7各国が目指す取り組みの方向性を示した「富山・金沢宣言」が採択されました。中でも自然体験・文化芸術体験の機会を充実することで子供の社会情動的スキルの向上を図るという方向性は、当市がこれまで取り組んできた金沢ふるさと学習に通じるものであり、ここ金沢の地で採択されたことを大変意義深く感じております。

本会合の開催を迎えるにあたり、当市では、サミット給食や国際理解講座等を実施し、機運醸成に取り組んできたほか、共同開催ならではの取り組みとして、両県両市の連携のもと、双方の中学生たちが、よりよい未来のために自分たちができることについて議論する「富山・金沢こどもサミット」を開催しました。生徒たちが宣言書を取りまとめていく中で、相手の意見に寄り添いながら自らの考えもしっかりと表明していく姿を見て、大変心強く思うとともに、このような貴重な機会が生徒たちの成長や自信にもつながったものと嬉しく思っております。また、この宣言書を、会合の場においてG7各国の方々に発信できたことも大きな成果だったと考えております。

当日のエクスカージョンでは、金沢21世紀美術館と国立工芸館を視察いただき、伝統と革新が融合した金沢のまちを体感いただいたほか、夕食会では、石川・金沢が誇る伝統芸能、伝統工芸、食文化といった重層的で個性ある文化を堪能いただくなど、地域の特色を生かしたおもてなしに努めたところです。会合に合わせて企画した、G7各国のインフルエンサー向けの特別ツアーも含め、石川・金沢の魅力を世界に大いに発信することができたと感じております。

この上は、世界における教育の方向性を示した「富山・金沢宣言」が各国で共有され、教育の現場に反映されることを願うとともに、当市としても、今回の成果を教育はもとより、観光などの各般に引き継ぎ、持続可能で活力ある都市の発展につなげてまいります。



文部科学大臣
永岡 桂子

本年5月12日から15日にかけて、富山県富山市及び石川県金沢市において、G7富山・金沢教育大臣会合を開催いたしました。会合開催に際しては、地元富山・金沢の方々をはじめとした関係者の皆様に、会合の成功に向けた様々なご協力をいただきましたこと、改めて深く感謝申し上げます。

この度の会合は、新型コロナウイルスのまん延やウクライナ侵略などがもたらした劇的な経済的・社会的変化、また、今の子供たちが将来担うこととなる新しい時代を見据え、コロナ後の教育の在り方を今一度考えるべきではないかという強い認識のもとに、G7各国とEU、OECD、UNESCOの代表が富山・金沢の地に集まり、開催したものです。今回の会合の最大の意義は、教育を取り巻く制度や状況は各国それぞれ違う中でも、教育の根幹となる理念をG7として共有できたこと、生成AIへの対応や教員不足など各国で共通の課題を抱えつつもそれを克服するという確固たる意志を示せたこと、教育の分野での国際的連帯の必要性やウェルビーイングの重要性が再認識できたこと、また政策対話を通じてG7の協力関係を継続的なものとするに合意できたことであったと考えております。その成果を「富山・金沢宣言」として取りまとめられたことは私にとりまして大きな喜びとするところでです。

このように会合そのものも意義深いものでしたが、地元の皆様の温かいおもてなしにより、各国等・国際機関の代表に、日本の小中学校や大学等学校教育の実践の場や美術館・博物館を視察いただいたほか、地元主催夕食会・演出等を通して日本の食や文化を楽しんでいただくことができました。日本についてよりよく知っていただき、また終始和やかな雰囲気の中で議論ができましたのも、富山・金沢の魅力もさることながら、ひとえに、地元の皆様のご尽力によるところが大きかったものと思っております。

富山県、富山市、石川県、金沢市におかれては、今回の「G7富山・金沢教育大臣会合」を機に、地元の魅力の世界的な発信にますます力を入れるとともに、教育の取組を充実していかれることを期待しております。



G7教育大臣会合
富山県委員会会長

富山県知事
新田 八朗

令和5年5月12日から15日の日程で開催されました「G7富山・金沢教育大臣会合」は、各国の教育担当大臣や国際機関の代表など多くの皆様のご参加のもと、大きな成果を収め、無事成功裏に終了しました。

今回、我が国初の共催による閣僚会合となり、県では、安全・安心かつ円滑な開催に向けて、文部科学省や富山市に加え、石川県や金沢市とも十分に連携しながら受入れ体制を整えました。また、教育や経済など37に及び県内関係団体からなるG7教育大臣会合富山県委員会を組織し、応援事業や協賛金の募集、機運醸成やおもてなし事業を実施するとともに、万全の準備を行いました。

会合では、今後、G7各国が連携しながら進めていく教育の方向性等が「富山・金沢宣言」という名称で取りまとめられ、世界へ発信されました。この宣言に、本県が政策の柱として位置付けている「ウェルビーイング」の向上策が盛り込まれたことは、極めて大きな意義があったと考えています。

また、本県で開催されたオープニングセッションに引き続き、同年3月の「こどもサミット」に参加した富山市と金沢市の中学生代表が、自分たちでまとめた宣言書の内容などについて英語で発表する場を実現できました。各国大臣からの未来の教育等に関する質問にも堂々と答える姿は大変頼もしく、子どもたちにとっても一生忘れられない経験になったと思います。

このほか、エクスカーションや夕食会等を通じて、高い教育力をはじめ、自然や歴史、文化、食など本県が誇る多彩な魅力を国内外にアピールすることができたことも大きな成果だったと考えています。

今後、「富山・金沢宣言」をふまえ、コロナ禍で明らかになった学校の役割を改めて認識し、子どもたち一人ひとりの「ウェルビーイング」を高めるため、教員の確保・配置の充実、意識改革や資質の向上に加え、学校現場の働き方改革、ICT環境の充実等を図りながら、課題解決型学習や国際交流を推進することで、子どもたちが主体的に考え、多様な他者と協働しながら解決策を生み出す力を育成してまいります。

また、今回、「こどもサミット」をはじめ、子どもたちが主体的に参画する事業を数多く実施しており、これらの貴重な経験や学びから得られた自信と誇りを、県内の子どもたちに広め、レガシー（遺産）にしていきたいと考えています。

結びに、「G7富山・金沢教育大臣会合」の開催にあたり、多大なお力添えをいただきました文部科学省をはじめ関係の皆様、ご協力をいただきました県民の皆様に対し、あらためて心から感謝申し上げます。

ごあいさつ



G7教育大臣会合
富山県委員会副会長

富山市長
藤井 裕久

G7富山・金沢教育大臣会合が5月12日から15日までの4日間にわたり開催され、そのうち、前半の2日間は本市が会場となりました。今回の会合は、国内で開催された閣僚会合としては初めて複数の自治体での開催となり、富山県と連携して準備を進めてまいりましたが、開催にあたり、お力添えをいただきました関係者をはじめ、警備や交通規制等に格別のご理解とご協力を賜りました市民の皆様方に深く感謝申し上げます。

今回の会合では、G7各国が教育の普遍的な価値や重要性を再認識され、今後の教育の方向性等が「富山・金沢宣言」として取りまとめられたことは、開催地の本市としても誠に喜ばしい限りであります。

また、2016年のG7富山環境大臣会合に続き、7年ぶりにG7の閣僚会合が本市で開催され、成功裏に終えることができたことは、市民の皆様方のシビックプライドの向上につながるとともに、何よりも、小中学生をはじめとした将来を担う子ども達の自信につながったという意味において、大変大きな意義や成果があったものと考えております。

特に、富山市と金沢市の中学生の代表と各国大臣との意見交換では、会合に先立ち3月に開催された「富山・金沢子どもサミット」において、宣言書を取りまとめた経験を踏まえ、自分の意見をはっきりと自信を持って発言する姿を見て、非常に頼もしく感じるとともに、「子どもサミット」の成果をG7の各国にも発信し、共有できたことを嬉しく思います。

また、代表団のエクスカースションでは、小学校での情報通信端末を使った授業の視察や、中学校での郷土芸能部とのおわら踊りの体験、ガラス美術館での展示作品の鑑賞などを通して、本市の充実した教育分野におけるICT環境や、地域の伝統芸能が若年層にしっかり継承されている様子、「ガラスの街とやま」の魅力などを各国の大臣にアピールすることができました。

さらに、会場となった国際会議場には自治体を紹介するブースが設けられ、本市のブースでは、展示パネルやパンフレットを用いて、コンパクトシティ政策やSDGsの取組みなど、本市の施策を積極的に発信することができたことも大きな成果であったと考えております。

本市といたしましては、今回のG7富山・金沢教育大臣会合で得られた成果を次の世代にしっかり引き継ぐことはもとより、子ども達に明るい未来を創造するため、引き続き、教育環境の充実を図るとともに、本市のさらなる発展に努めてまいります。